

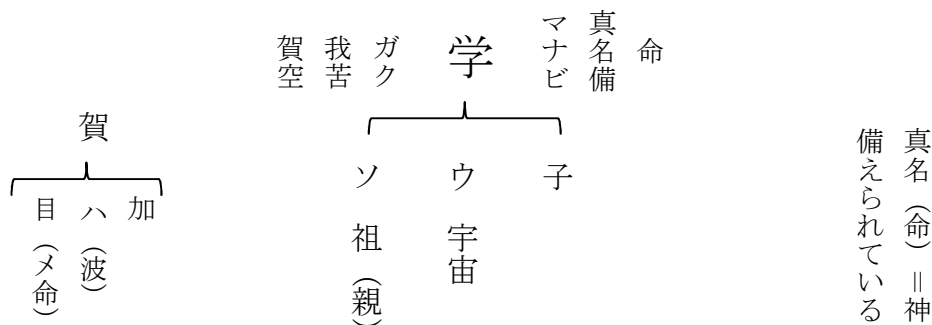
肩、肉体の門 病からの解放

先日光透波を学ぶ仲間を久しぶりに訪ねた。その人は東洋医学の治療師なので治療してもらおうことにし、私は代わりに温熱療法を施すということになった。

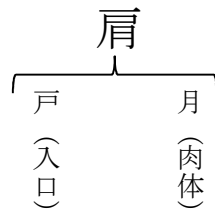
私はどちらかと言えば体が硬いほうだ。ヨガの教師に、人それぞれ生来の体質として体が柔らかい人と硬い人があるが、私は非常に硬いと言われたことがある。子供の時から誰かに背中や腰を押してもらおうと気持ちが良かったのはそのせいだったかもしれない。要するに体が凝っていたわけである。

先に治療をしてもらうことになり、呼吸を整えることから始めた。ゆっくりと腹式呼吸をする際に頭の中で「光透波を回す」作業をする。自分が宇宙実親の子供であることを「字（ウ+子=宇宙の子）」から学んでいる者として、頭の中で「学」の字分けをする。

学ぶとは自分が親（祖）なる宇宙の子であることに気づき、そのことを真に納得するための過程である。これが究極の学びで、これがゴール。つまり、真に納得したら「真我顕現」となる。言い換えれば「神意識」と同調することになる。人類は何千年も究極の理解を求めてそこに到る「道」を様々な方法で歩んできた。だが、「真我顕現」を果たした人はほとんどいない。



真の親の愛という光（真名）に抱かれて一度も見放されることなく生きている、いや生かされているのにも関わらず何故悲しく、淋しく、辛いのか？ 悲しみの果てに終には腹がたって怒りに満ちてしまう。怒りの虜となって、執着の塊が出来る。「あの人は嫌い」、「この人のしていることは怪しからん」と批判が始まる。しかし「人は変わらないもの」だから結果的に自分が苦しむ（我苦）。自分が空（無限）だと気づけば命の波（目+ハ=命波）が加えられて来て、喜び（賀）に満ちるのに。内なる子、インナーチャイルドが伸び伸びと自由で、喜びに満ちていたいのに、それが出来なくて「苦しいよう」と叫んでいるのが「病氣」である。痛みを發して苦しみに気づいてもらおうとしているのだ。心の状態を肉体が反映していることに気づくことが治癒の第一歩である。そこでまず肉体の入口である「肩」から治療を始める。肩を治療する際には肩には触れず、顎関節から始めるそう。



まず、インナーチャイルドの声を聞く（痛みに向き合う）。優しい治療の手が顎関節にそっと触れている。顎はAGO（過去）の辛い体験を反映している箇所。辛いと「歯を食いしばって我慢する」、悔しいと「歯噛みする」箇所で、顎関節が緩むと首の骨（頸椎）が緩み、肩が楽になって来ると言われ、その通りに「思う」。二人で「思う」、つまり「光透波を回す」作業が始まった。すぐに肩から上腕、ヒジから手首に向けて痛みが走りだす。「イタタ、イタイ、イタイヨウ」と痛みを体験して行く。腕や手首が勝手に動く。動いた筋肉からストレス物質がガス状に抜けて行く。匂いもひどい。頭上の蛍光灯がバシバシ瞬く。空調がバシッと止まる。「電気現象」が起きているのだ。電磁場の状態が変化して現象化するほどのストレスが治療室に満ちる。

「こんなに溜めていたのか。ごめんね」

インナーチャイルドに謝った。腕の痛みが治まり肩も楽になった。休憩してから今度は足腰。またまた「字分け」で始まる。子供のころからの痛み苦しみの記憶を記録して、それを日々の生活の中で「繰り返し、蒸し返し」して、生活に支障をきたしている行動パターンは脚の先に反映されているそう。脚先とは足のこと。だからリフレクソロジーや足裏反射区治療が効果的な訳。何しろLEGEND（英語で記録されたものを伝承して行くという意味）だからだそう。字分けするとLEG（脚）とEND（末端）になる。「なあるほど」と大いに感心。と同時に納得。

腰が大きく動くように脚を揺らされているとまたまたストレス物質が噴出してくる。肩の時より量が多い。足腰は大きな筋肉があるから溜まっている量も多いのだ。空気活性機やプラズマ発生器がいくつもあるのに間に合わないくらいの量が出ている。足先から出るのでそちら側にいる治療師の方が胸がむかつく程度がひどく、途中で他の部屋に行って休んでから戻ってきたほどだった。

結局2時間もかかってやっと体が軽くなった。それまでは重さがそれほどとは気づかなかった。治療前におへその周囲を計っておいたので、後でまた計ってくらべてみる。約8センチ減っていた。

気づきと解放。これが大切な要素だと分かってから温熱治療を始める。よく分っている人が相手なので何も説明はせずに注熱して行く。注熱するとどんどん筋肉が緩んで行く。素直な体をしているなど思う。面白いほど効果が上がっている。交通事故で鞭打ち症になり、首がガチガチなのが緩んで行くと頭の半分がへこんでいるのに気づく。頭の中で「光透波を回し」まあるいおにぎりを結ぶように擦っていると、凹んでいた頭蓋骨がムクムクと盛り上り、頭が丸くなって行く。骨は以前に字分けしたので覚えておられると思うが、「本の音」に反応してくれるので、光透波で動くのだ。

「ひとにやってもらおうのっていいなあ」

そうか、自分ではなかなか治療はできないのか。人間の手は他人に向けては力が入るが、自分向けには入らない構造をしている。だから「人」という字は支え合うという形をしているのだ。お互いに相手を気遣い、楽になってもらいたいと思う気持ちが「調和的な和やかな波動」を発して、周囲も和ませて行くのだと気づいてから治療がとても好きになった。

最後に多くの気づきを下さった桑原大治（大きく治す人）さんに感謝の意を表します。以下は彼からのメールです。

昨日は 嬉しかったです。

凍結麻痺していた筋肉緩み、首も楽です。 やってもらうに限る！

温熱で（温音通）

氷解け（NOT+ICE） 注。NOTICE は気づきという意味。

内子労わる（学→ソウ子、素のインナーチャイルド）

2012.4.29